

「試行錯誤」

東京大学 理科一類

Nさん

皆さん、こんにちは。平成30年度卒業生のNです。私は一年の浪人を経て東京大学理科一類に合格しました。ここでは私の高校生活や浪人生活、勉強法について話そうと思います。

○高校生活

私は入学時はいわゆる旧帝大(東大、京大、阪大、名大、東北大、九大、北大)を目指してはいませんでした。しかし、一つ上の学年の先輩や京大にいた従兄弟の影響で、一年生の夏から京都大学を目指すようになりました。一年の終わりには所属していた卓球部を辞め、勉強時間を確保しようとしました(これが正しい選択だったかは分かりません)。三年の夏に京大のオープンキャンパスが取れなかった私は、仕方なく東大のオープンキャンパスに行ったのですが、そこで東大に魅力を感じて東京大学に志望を変えました。東大を受けた私は手も足も出なかったように感じましたが、開示を見ると5点差で不合格でした。悔しくて浪人を決意しました。

○浪人時

私は広島県の駿台予備校で浪人しました。周りに東大志望の人が大勢いる環境が刺激的でした。心が折れそうな時もありましたが、一緒に頑張仲間存在に支えられモチベーションを保つことができました。一年鍛え直して望んだ東大入試でしたが、中々思うように解けませんでしたが、それでもやり切ったという気持ちが大きく、落ちて悔いはないと思えるほどでした。だからこそ合格した時の喜びは大きかったです。

○勉強について

人によって適した勉強法は異なると思いますが、私なりの指針を示します。まずは目標設定です。志望校が決まっていると良いのですが、そうでなくても自分の到達すべき学力レベルが見えていた方がよいです(志望校が決まっている人は過去問を見てみると良いです)。

次に現状把握です。要は合格最低点を超えればよいのですから、合格点を取るには自分は何が出来ないといけないか考えます(例えば数学の軌跡における逆像法など)。

最後は自分がやるべき事を潰していく作業になります。やるべき事が分かるように計画を立てることをオススメします。

—補足—

参考書などは自分が気に入ってモチベーションが上がるものなら何でもいいです。毎日何ページとかよりも、「今週はこの分野を完成させよう」などとすべきです。目的意識をもって勉強すれば効果は2倍(適当)です!単純作業にならないようにしましょう。

○センター試験

社会などの暗記色が強い科目は夏に10年分解いておくといいです。秋からの目標が明確になります。

国語については古漢はやればやるほど伸びます。現代文が苦手な人はマーク模試で安定して高得点を出している友達の読み方を真似てみるといいです。日本語のプロである私達だからこそ日本語の読み方を一度見直す必要がある気がします。他の科目については過去問演習をして自分の足りない部分を補う作業を繰り返せば大丈夫です。

○2次試験

過去問を研究して下さい。時間配分や捨て問、解く順番など本番を想定した練習が必要不可欠です。2次試験の問題は基本的に満点が狙える

ものではないので、難しい問題に固執し過ぎずに捨てる勇気もいります。自分の得点を最大にするにはどうすべきか試行錯誤してみてください。正直難しすぎる問題は余裕が無ければ復習しなくてもよいです。心が折れるかもしれないからです。むしろ簡単な問題を確実に取る訓練を積むべきです。

○終わりに

勉強をしていると、「もっとこうすべきなんじゃないか」などと新しいアイデアが浮かぶものです。そういう時は是非試してみてください。上手くいっても失敗しても成長できるはずです。試行錯誤しながら勉強している状況を楽しんで下さい。皆さんの検討を祈ります。最後まで読んで頂きありがとうございました。

「短い高校生活を濃い時間に！」

広島大学 教育学部

日本語教育系

Iさん

Hallo ich bin I. Ich lernte ein Jahr in Deutschland als Austausch Schülerin.

(こんにちは。Iです。私は交換留学生として1年間ドイツで学びました。)

皆さんの役に立てるかは分かりませんが、留学の話や私が受験にどう取り組んだかいくつかの項目に分けて少し書きたいと思います。

〈高校生活〉

私は英語部でディベートしたり、プロジェクトに参加したりしました。学校の授業では主に答えがあります。プロジェクトでは答えがあらかじめ用意されているわけではありません。そう言った活動を大学生や社会に出る前にできたことはとても貴重な経験だったと思っています。他にも学校外でガールスカウト活動を通して様々なことに挑戦することで3年間で私の世界は中学の時よりもさらに広がったと思います。

〈留学〉

私はドイツに留学していました。ドイツといっても皆さんが知っているようなミュンヘンやベルリンなどではありません。長門市のような小さな町でとても過ごしやすかったです。留学中はたくさんの出会いがあり、多くの人に支えられました。ドイツ語だけでなく文化やマナーなど多岐にわたって指導して下さった先生や一緒に留学を乗り切った仲間、学校生活を共に送ったクラスメイト、ホストファミリーと様々です。

特に人の優しさに触れたのは、留学団体の旅行の帰りです。電車の止まるホームが突然変わり乗り遅れた時に、普通なら新しくチケットを買い直さなければならないのですが、駅員さんが切符を振り替えてくれました。相当困ってるように見えたんですかね(苦笑)。無事に帰れたので良かったです。

〈志望校決定〉

私は留学体験と部活での経験から外国にルーツを持つ子供たちに日本語を教える先生になりたいと考えるようになりました。しかし決まったルートが見えなかったのでマナビジョンなどのサイトで条件を絞り込む機能を使用し、大学を見つけました。それでも大学のホームページを見ると学びたいこととズレていて候補から消えていくことが何校もありました。大学探しは半年以上行ったと思います。帰国後オープンキャンパスや大学巡りをし、その結果広島大学を志望校にしました。第一志望が決まった後も他の私立大学を検索しました。しかし偏差値が数段上の大学が多くあり、その時点ではダメかも、と思いましたが、勉強のモチベーションと自分が行きたいという意志で、少し上のランクの大学を志望校に設定しました。

〈受験準備・勉強〉

AO入試とセンター試験+リスニングに分けて書きたいと思います。

〈AO入試〉

自己推薦書は何度も何度も書き直し、ゴーサインが出るまで二ヶ月ぐらいかかりました。内容は自分がこれまで何をしてきたかを数字など具体的に示し客観視できるようにし、(例:英検の級、TOEICのスコア、部活で得た賞)加えて大学でやりたいことを講座名を出してアピールしました。少ない文字数で全て収めるのはとても難しかったです。あえて詳しく書かないで置いてそこを面接で聞いてもらえるようにして工夫しました。また白

紙の部分がなかったので枠の書き方を工夫して見栄え十分かりやすさ重視で記入しました。

二次試験には小論文と個人面接、プレゼンテーション(以下プレゼン)を含むグループディスカッション(以下GD)と盛りだくさんでした。小論文では大学の過去問が一年分しかなかったので似たような小論文を書き、先生に見直して頂いた後、もう一度同じ題で書くようにしました。また文章力と同様に自分の基礎知識を増やすことが重要だと考え、新聞を読んだり大学の教授が書いた論文を読んだりして知識をつけました。(本番に読んでいたことが生かせる問いがあり、やって良かったと思います。)

個人面接は先生にあえて答えにくいような質問を出してもらうことでその場で考えて答えるという練習をしました。私は一言一句覚えることができないので、聞かれる確率の高いものはあらかじめ具体的な内容を考えるだけにしました。そうすることで本番でも臨機応変に対応できる力がついたと思います。

プレゼンを含むGDは私が特に苦手としていた項目でした。加えて一人では練習が難しかったため、先生や後輩、友人の力を借り何度も練習しました。たくさんダメ出しをもらい、後輩から技を盗んで少しずつ苦手を克服していきました。この練習がなければ私は落ちていたと思います。手伝ってくれた方に感謝しています。

〈センター試験〉

私は私大に絞って英語、国語、地理に絞って勉強しました。センター利用を考えていたのでセンター対策はとにかく過去問を10年分2周以上解きました。答え合せをして、間違ったところは問題をコピーして問題に解説を書き込みし覚えていきました。おかげで要領を掴みながら知識も入れることができました。新しい入試制度を把握しきれて

いないのですが、新しい受験方式でもセンター過去問は解いておいて損はないと思います。センターの問題はそれぞれの教科の基礎が必要なため私はセンターを解くことで基礎力をつけられたと思います。

〈リスニング〉

リスニング苦手っていう人多いと思います。私は通常教科同様問題を解く他に洋楽を聴いて歌うことで英語に慣れるようにしました。口を動かすことが重要で、また歌うことは息抜きにもなるのでオススメです。

〈受験〉

私が受験に行った時、まず下見をしました。大学までホテルからバスで行く予定だったので、バスで実際に行って心の余裕を持たせられるようにしました。

受験は全て練習通りに行くわけではありません。私の場合は面接で練習で予想もつかないような入り方をして頭がととても混乱しました。そのためイレギュラーはいつでも起こることを念頭に置いておいて欲しいです。また私はGDがあったので待っている間、同じ受験者と話していました。その甲斐あって試験は変な緊張もなく、リラックスして挑むことができました。また話していた内容が個人面接で聞かれたので話していてよかったなと思います。

〈最後に〉

志望校はよく調べて考えて決めること、受験まで少しでも自由な時間があるなら様々なことに挑戦して自分の世界を広げておくことの二つを覚えておいて欲しいです。

まだ何がやりたいかわからないという人が多いと思います。しかしこの時期に一旦自分を見つめ直し、何がやりたいかを考えることはとてもいい機会だと思います。その段階で新しいことに挑

戦したり、勇気を出したりすることで世界を広げることができるはずで

私は志望校決定に多くの時間を費やしました。幸いなことに第一志望の大学に合格しましたが、もし他の大学になっていたとしてもその時間のおかげで自分の学びたい方向性は大きく変えずに済んだと思います。以前ある先輩の話聞いた時に、もっと大学選びをきちんとすればよかったとおっしゃっていました。詳細に調べることで大学に入ってから後悔が減ると私は信じています。受験勉強している間は落ちたらどうしようという思いが絶えず隣にいる感じですが、その分嬉しいこともあります。皆さんが気持ちよく春を迎えられますように。

拙い文章でしたが読んでいただきありがとうございました。

‘Imagine yourself studying at
the university you want to go.’

国際教養大学 国際教養学部

Sさん

私は高校生活を通して、自分自身の視野を広げるためにとにかく多くのことに挑戦することを心がけました。フィリピンで貧困地域を訪れたり、ニュージーランドでホームステイをしたり、英語ディベートの大会に出場したり、東京でボランティアに関するイベントに参加したりなど地域を問わず自分の興味のあることに挑戦してみました。このように行動した理由は主に2つあります。1つは、単純に多くの経験を重ねて、自分の経験値を上げたかったから。2つ目は沢山の人の人に出会い、その人達から話を聞いたかったからです。

幼い頃から英語を学んだり、海外の方と交流するのが大好きでした。よって将来は国際的に活躍したい、と考えていたのですが、その具体的な内容はぼんやりとしていたため、なるべく多くの人の話を聞き、様々なジャンルの知識をつけ、多くの道を知りたいと思ったからです。

それと、1年生の頃から興味のある分野の大学を国内外問わず何度も調べました。1人で東京の大学のオープンキャンパスに参加したり、部活の顧問の先生に紹介していただいた国際系の大学に在学中の先輩に連絡してアドバイスをいただいたりもしました。目標の大学を定めることは簡単ではありません。自分で調べることは限界があるので行き詰まった時には是非周りの友達や先生方に相談してみることをお勧めします。

私は高校2年生の3学期に自身にとって1番魅力的な大学を見つけ、そこを第一志望校にしたので、その頃から少しずつ2次試験対策も行いました。私の場合は推薦試験も受けることを決めていたので、一般試験でも推薦試験でも必要な英語小論文の対策に特に力を入れました。3年の7月までは1ヶ月に2、3エッセイ程度、7月からは1日1エッセイ書くようにしました。300ワード以上という規定だったので夏休み中はとにかく文字数を超えられる程度書けるようになることを目標とし、2学期が始まってからは最低でも400ワード以上は書けるようになったので内容重視で書きました。2学期からは英語の先生方に添削もしていただきました。多くの意見を聞きたかったので、1つの題で3回書き、3回とも違う先生に添削していただきました。英語の小論文でも日本語の小論文でも同じことですが、やはり知識がないのとあるのでは全く違うと思います。私はESSに所属しており、普段から日本の社会問題、世界各国で起きている環境問題、貧困問題など様々な問題について調べる機会があり、自分自身も好きで意識して調べていたので英語小論文を書くときにはそれらの知識が生かされる良い機会になったと思います。普段そのような知識をつける機会がなく入試で小論文が必要な人は、新聞を読む習慣をつけるといいかもしれません。時間がないと思う人はそれぞれのジャンルについて最低限の知識をつけることを優先すると良いと思います。

勉強を行う際に毎日したことは、プランを立てることです。スタディプランナーというノートに1ヶ月のプラン、1週間のプラン、1日のプランを立て、計画通りに勉強するようにしました。それと、スタディプラスというアプリで勉強時間、科目の配分を可視化しました。そうすることで自分なりにバラ

ンスよく勉強がすることが可能になりました。他にも、このアプリでは学校の友人とアプリ内でフォローし合うことで、お互いの勉強時間を見ることが出来るので、友人が頑張っているから自分も頑張ろう！というふうに良い刺激をもらえたと思います。

受験生はスキマ時間を活用することが重要になってくると思います。私は車で移動する際には英単語のアプリで新しい単語を覚えたり、英語のリスニング練習を行ったりしました。

TEDのアプリは様々なジャンルの英語のスピーチが聴けるのでオススメです。(YouTubeでも聴けます。)

是非自分の興味のあるジャンルのスピーチを聞いてみてください。最初はスピーキングの速さに慣れないかもしれませんが、繰り返すうちに慣れると思います。

YouTubeで聞くと速度を速めたり遅くしたり出来るので慣れるまでは速度を下げて聞くのも良いかもしれません。普通のスピードに慣れておけば、センター英語のリスニングの速度が遅いと感じるようになるので、余裕を持ってテストに挑めます！

第一志望の大学のオープンキャンパスは少し距離があっても絶対に行くべきだと思います。そこで先生方や生徒の方々の雰囲気、キャンパスの雰囲気、設備などを自分の目で見ることによりその大学に行きたい！という気持ちがより高まり、勉強のモチベーションを上げることが出来ます。私は勉強のモチベーションが下がった時には自分がその大学で授業を受けている姿を想像したり、大学のホームページを見たりしました。

私が受験勉強の上で少し後悔していることはセンター世界史の勉強の仕方です。私は夏休みの間、世界史の勉強は一問一答形式の参考書ばかり行っていました。確かにこの形式の参考書はクイズのようで楽しいし、覚えられますが、それよりも教科書を読み込んだり実践的なものもやっておくべきだったと思いました。早めにセンターの過去問に取りかかっても良かったかもしれません。それと私大の一般入試で地歴公民が必要な人は早めに赤本やインターネットで大学の出題形式を知っておくことが重要です。大学によっては出題される時代や地域が指定されているので、センター勉強も兼ねてその年代を完璧にすると一般とセンター両方の対策になって効率的に勉強を進めることが出来ます。

大学入試は辛くなることの方が多かったし、挫折しそうなことも多くありました。しかし、推薦試験で不合格になった時も、センター後の判定が悪かった時も、諦めずに試験を受けたことが今の結果に繋がりました。ありきたりな言葉ですが、どうか自分が行きたい！と思える大学があるのならその大学で勉強する自分をイメージして、諦めずに頑張ってみてください。応援しています。

「未来の美大生へ」

武蔵野美術大学 造形学部

デザイン情報

〇さん

「美術大学…？私は美大なんか目指していないしスルーしよ～」と次のページをめくろうとしているそのあなた。地方高校では進学者が少なく、認知も低い美術大学についてこの機会に皆さんに（先生方にも）少しでも知っていただきたいと思い執筆することを決めたので、どうかそのまま読み進めていただけると幸いです。

最初に申し上げますが、ここから書く内容は私が受けた東京私立美大（武蔵野美術大学、多摩美術大学、東京造形大学、女子美術大学）についてです。地方公立の造形大学や芸術大学については少し違う部分がありますのでご了承下さい。

〇受験勉強を始める前に

美大受験について書く前に大学受験との向き合い方について少し。私が美大を本気で目指したきっかけは大学の資料請求です。最初は、美大もありかな～でも経済学も興味あるな～という考えだったのでただ聞いたことのある美大や一般私立大学（私大は多くが無料）の資料を大量に請求をしてみた、ただそれだけです。この文章を読んでいる人の中には、まだ行きたい大学や将来何がしたいかがはっきりしていない人も多くいると思います。そんな人たちにできるだけ多くの大学の資料、様々な学部や学科に目を通すことをおすすめしたいです。たくさん資料を読んでいる

うちに私は無意識に気になる分野のページはめくる手を止めてじっくり読み、そこまで興味のない分野は流し読みしていたことに気づきました。全員がこの方法で興味のある分野が見つかるとは限りませんが、ぼーっとどこの大学行こーと考えていても天からの贈り物のようにこの大学だ！とひらめく可能性は低いでしょう。大学受験においてまずすべきことはリサーチです。分からなければまず自ら調べよ。それが美大を目指す稀な受験生として、大津の先輩の事例や美大に詳しい先生が少ないなかで私が学んだことです。

〇学科試験について

美大受験生は実技対策もあるので学科試験対策に足を引っ張られないためにはセンター対策が重要です。私立美大志願者であれば、センター試験は3教科で大体英語は必須ですがほかの二科目は得意科目で良いと思います。しかし各大学の学科試験は多くの場合国語と英語なので、国英ともう一つ得意教科を選択するのが良いと思います。ちなみに私は地理を選択しました。対策方法については他の優秀な執筆者の方々が書いてくださっていると思うので私は一言ずつのみ述べます。国語に関しては多くの私立美大ではセンター試験で「近代以降の文章」＝現代文しか必要ないということです。英語は満点狙うつもりでやりましょう。地理は学校で配られたものと過去問で十分です。私は地理において参考書は必要ないと思います。資料集を隅々まで熟読して過去問を繰り返し解き、様々な問題パターンを攻略することでセンター8割は死守できました。美大受験生はいかに実技対策に時間を費やせるかが肝です。周りの友達より早く受験勉強に取りかかることをおすすめします。

○ 実技試験について

正直に申し上げますが、美大受験をしようと考えているなら実技試験対策のために美術予備校や画塾に通うのは必須です。学校の美術の授業や部活など独学で受験対策することは難しいでしょう。実技試験なしの学科試験のみで受験する方法も増えてきていますが、デッサンや色彩構成を大学入学前に訓練しておくことは重要ですし、美大ではデッサンはできて当たり前の人が多いことが現状です。また、実技なしで受験できる学科は少ないので併願がしにくく美大への可能性を狭めてしまう可能性があります。私は2年生の4月から通い始め、初めは週2、3回、2冬頃から受験期は週5で下関にある塾に通っていました。早く始める程よいです。私が入ったタイミングでも東京の美大を目指す人たちにとっては遅い方またはギリギリ間に合う程度です。今、または今後美大を志願する予定の方は早めの行動をおすすめします。描けば描くほど上達します。描けば描くほど合格に近づきます。

○ 受験勉強は辛い…?

受験勉強中のモチベーションの保ち方について。私は受験中の合格以外の目標として「楽しむ」ということを掲げていました。そう考えるようになったのは部活の尊敬する先輩から、受験勉強をやるからには楽しんで！といわれたことがきっかけです。(ちなみにその先輩は昨年の進学のしおりに勉強を楽しむことについて執筆されていますので興味がある方は是非)私はその言葉を勉強やデッサンは楽しみながらして、最終的には受験前日や当日に試験が楽しみになるように受験まで過ごしたいという風に噛み砕き目標として掲げました。結果的にセンターも実技試験も全体の受験生活も一っつも楽しかったです。ですが、本番

で「楽しむ」ということは当日までに目標点は確実に取れる程の学力をつけ、そのうえ少し余裕が持ててやっと思ふことができる私は考えていたため、そのための努力は惜しみませんでしたし、自信を持って死ぬ程頑張ったと胸張って言える程度にはやりました。ちなみにたまたまに本当に受験勉強がいやになったときにはきっぱり手を置いて、目指すきっかけとなった大学の資料を眺め私はここに行くんだ！と自分を高めていました。

ついでに SNS についても一言述べておきます。私は Twitter だけは最後まで辞めませんでした。よく勉強の邪魔になるから SNS は辞めなさいと言われるかもしれませんが使い次第です。Twitter には東大や早慶など難関大志望の人たちもたくさんいます。そういう人たちはどう上手く SNS を使っているのか、どんな勉強をどれくらいしているのかを知ることができるし、何より刺激になります。私は上記の人たちの他に、同じ大学を目指している人や志望校の教授や生徒、好きなデザイナーなどをフォローしていました。SNS を使い続けるのであればモチベーション向上や受験勉強にプラスになるように使うべきです。それができずにただの馴れ合いや暇つぶしにつかうのであればきっぱり辞めることを勧めます。

○ 最後に

未来の美大生へ、自分の目指している世界を大事に誇りにしてください。挑戦することに妥協はしてはだめ。根拠のない自信でも持ち続けること。無謀な賭けは勝ちにいこう。いつか美大で、またはデザイナーや表現者としてクリエイティブ業界でお会いできる日を楽しみにしています。

「自分の将来のために

やっておくべきこと」

広島大学 教育学部

国語文化系

Mさん

高校に入学した時、これからの3年を長いように感じました。しかし、気付いた時には進路選択を迫られ、受験生となって大学入試を経験し、あっという間に卒業式を迎えていました。皆さんもこれから過ぎ去るように時間が経ち、短い高校生活だったなと感じるかもしれません。私はこの3年間で、様々な行事や部活動などを通して本当に多くのことを学びました。同時になんであの時こうしなかったんだろう、という後悔もあります。だから、これを読んでいる皆さんが私の後悔を知って、少しでも役に立てたなら嬉しいです。

私の後悔は、何でもかんでも後回しにしてしまったことです。勉強にしろ部活動にしろ、十分な準備をしていたとは言い切れないところがあります。今振り返ってみると、楽観的に物事を捉えていたせいで、中途半端なことばかりでした。良くも悪くもない成績や、自分の詰めの甘さを痛感した生徒会活動など、自分の見通しの悪さを悔やむばかりです。もっと要領よく行動できていたら、違った結果になっていたかもしれないと、反省しています。つまり、何事も計画性を持って取り組むことが大事であるということです。ゴールから逆算して、余裕を持った予定を組むことが重要だと思います。

大津校舎に在籍している皆さんのほとんどは3年の1月にセンター試験を受けることになると思

います。その際に私がやっていたよかったこと、やっておけばよかったことなどをお話したいと思います。そもそもセンター試験では自分の志望大学に合わせて、それぞれで受ける科目を選びます。だから、志望する大学が必要としている科目をきちんと調べておかないといけません。それぞれの大学で社会が2科目だったり、理科が基礎プラス応用1科目だったり。センター試験への勉強はとても大変なので、自分が勉強すべき科目が何なのか、はっきりさせておくことが大切です。授業で習っている科目がセンター試験で必要なら、そのままいいのですが、人によっては1年生の時に授業でやって以来…という科目を選択しなければなりません。私は理系クラスでしたが、進路は文系だったので、授業で生物や化学を学びながら、基礎科目や現代社会を勉強する必要がありました。また、倫理や政治・経済など、元々授業がない科目が必要な人もいて、そういった人は普通の勉強とは別に、自分で勉強しなければなりません。テスト勉強などと並列してやるのはとても大変だったので、センター試験に向けての勉強はいつから始めても早すぎるということはないと思います。特に私はAO入試を利用したので、期末テストの時期はまるで余裕がありませんでした。入試が期末テストとも重なっていたこともあり、センター試験の対策はもちろん、テスト勉強ですら疎かになってしまいました。このことから、もっと早い段階からセンター試験の勉強をしていればよかったと思うので、皆さんはそういう風になっても、余裕を持てるように、対策は早め早めをお勧めします。

また、センター試験の出題範囲は広いです。高校で習った全ての範囲から出題されるので、莫大な量になります。そんな2年と少しかけて習ってきたことをセンター試験のために網羅するなんてことは到底無理です。だから私がした事は、苦手

分野の克服です。国語なら古文の主に助動詞の意味、数学なら図形の性質など、苦手な所を重点的に勉強しました。前の模試では解けなかった問題など、一度解いた問題を再度挑戦するという方法も効率的で役に立ったと思います。他にも、私は本番直前までリスニングの対策として、スマホアプリで英語を聞いていました。1.5倍速で聞いていたので、本番も落ち着いて聞くことができました。リスニングでは耳を英語に慣らしておくことがいいと思うので、良かったら試してみてください。社会に関しては教科書や問題集以外に、ニュースをよく聞いておくことが大切です。問題の中で、ニュースで取り上げられていたことが解答の糸口になることがあり、政治関連のニュースや「ブラタモリ」などで知ったことが答えになったりすることもありました。しかし、注意してほしい事は、得意分野の勉強も適度にした方がいいということです。国語や英語長文などは特に、長期間触れていないと鈍ったりすることがあるので、得意だからと慢心せずにバランスを取って勉強していった方が最終的に良い結果を生むと思います。

最後に、進路選択をする上で皆さんは自分の将来就きたい職業のことなどを考えると思います。文理選択も学部を選ぶ時も、何になりたいかで大きく変わってきます。正直2年生の夏休みあたりまで特に夢を持っていなかった私は、進路の話をするのが憂鬱でたまりませんでした。自分でもどうしたらいいのかははっきり分かっていないのに、どこの大学に行きたいなど考えられませんでした。でも、教員になるという夢を見つけ、自分の方向性を決めることができた時、とてもほっとしました。それから自分の将来について具体的に考えることができたので、皆さんも自分自身と向き合って将来について考えてみてください。大切な事は何になりたいか、であって大学がゴールという訳ではないし、自分の意思で決めるという事です。私

が進路で悩んでいた時、母が善意でアドバイスしてくれた「看護師や検査技師はどうか。」という言葉に揺れた時もありました。しかしそれでは看護師を辞めたいと思った時に、誰かの言葉のままに従ってしまったことを後悔するように思えたのです。どんなことがあっても、最終的に自分が納得できる方を選ぶことがいいのかな、と感じました。皆さんにも進路に関して悩む時が来るとは思いますが、悔いの残らないように、よく考え、しっかり勉強を頑張ってください。私もいつか教員として大津緑洋に戻ってこれるように、精一杯頑張りたいと思います。ありがとうございました。

「浪人して気づいたこと」

山口大学 医学部医学科

Mさん

みなさんこんにちは。平成29年度の大津緑洋高等学校の卒業生のMです。私は高校卒業後1年間浪人をして、この度推薦入試Ⅱ（センター試験を課す）で山口大学医学部医学科に合格しました。現役合格ではない私がこの「進学のおしり」を書かせていただくのは気が引ける部分がありますが、私の経験が少しでもみなさんのお役に立つことができれば幸いです。既に受験勉強を始めている人もまだまだこれからだという人も、時間があるときに読んでみてください。私はこのおしりを書かれている先輩方の多くとは異なり不合格と浪人生活を体験しているので、主にこれらから学んだことをお伝えしたいと思います。

1) 現役時代の失敗から

現役生のときの私の不合格は、受験生としての意識が低かったことが1番の原因だと思っています。高校2年生の2学期に志望校を決め自分なりに一生懸命勉強しているつもりでした。授業を最前列で積極的に受けて、早い時期から小論文対策をお願いしたりしていました。当時は十分なことをしていると思っていましたが難関である医学科に合格するために必要なことの1つに過ぎません。また、今振り返ってみると無駄にしていた時間もたくさんありました。休みに友達と過ごす時間が長かったり、放課後も集中力が低かったりしていたと思います。

そのときは自分なりには必死でしたが、あの程度の勉強量で受かるはずがないと今では感じます。長門市は良くも悪くも田舎で時間の流れがゆっくりです。さらに近くに他の進学校が無いこともあり、受験期にも張り詰めた雰囲気をなりにくいと、私は浪人をして気が付きました。同じ山口県内でも、高い意識をもって勉強している人がたくさんいます。みなさんは全国のような人と戦い、そして勝たなければなりません。志望大学・学部、将来の目標は人それぞれですが、中途半端な努力では自分の夢を叶えるのは難しいです。このことを忘れずに受験勉強に取り組んでください。

2) 浪人の経験から

私は今年のセンター試験で昨年より150点以上点数を伸ばして合格することができましたが、ただ1年多く勉強したからというわけではないと思います。昨年推薦入試、一般入試の前期日程・後期日程の全てで不合格となり、とても悔しい思いをしました。医師になる夢を叶えるために浪人を決めたときに意識に変化がありました。誰よりもたくさん勉強すると心に決めて寮に入り、毎日計画を立てて机に向かい続けました。夏の間には40日間で500時間を越える勉強量をこなし、多い日には1日14時間以上でした。もちろん楽な日々ではありませんでしたが、立てた計画を果たすにはそのくらいの量が必要でした。私の場合は極端なほどに勉強以外のことを排除して過ごした1年間だったかもしれませんが、そうしなければ浪人しても私は合格できていなかったと思います。みなさんも憧れの大学があるのなら、高校生のうちにできるところをすべてやり切ってください。そうすれば現役で合格して楽しいキャンパスライフを送ることができるはずです。

3) 受験について

昨年度の1年間、私は医学部に合格するために様々なことを排除して寮に入って勉強しました。その結果合格をつかむことができたわけですが、この1年間は私にとってそれ以上に意味のある年となりました。本気になったらどこまで努力できるのかを自分で知ることができ、自信もつきました。この力があれば、これからどんなにきついことがあっても乗り越えることができるだろうと思うことができます。大学受験は合格・不合格がはっきりするため合格することがすべてだと考えられがちで、私も一心に合格を追い求める姿勢は重要だと思います。しかしそれと同じくらいに、受験を通して1人の人として成長することもとても大切です。一回りも二回りも成長してください。

これまで、浪人をした私の経験からみなさんには現役合格してほしいということを伝えてきました。ただ、必ず現役で決めなければならないというわけではありません。たとえ今の学力からは厳しいと思ったり、これから勉強を進めていくなかで行き詰まったりすることがあったとしても絶対に諦められない夢をもってほしいです。

4) 最後に

浪人した1年間は、すべきことや目標がはっきりしており、勉強し続けることが苦しいと思うことはあまりありませんでした。しかし、本当に合格できるかわからずに過ごす日々は不安でいっぱいでした。そんなときに力をくれたのが、家族や予備校の友だち、高校の先生方や友人たちの存在です。ずっと私を支えてくださったみなさんには感謝の気持ちを伝えることができません。高校や大学で夢に向かって勉強

できるのは幸せなことだということを忘れず、周りの人たちに頼って良いのでその応援を力に変えて頑張ってください。

私の思うことをできる限り文章で表したつもりですが、すべてを伝えることは難しいです。ただ、最後に1つ言いたいのは、とにかく本気になってください、ということです。

みなさん1人ひとりに春が訪れることを心から願っています。